

浦戸湾の自然誌

第38号

Wildlife in Urado Estuary

No. 38

ハゼ科 ドロメ

Chaenogobius gulosus



2004年6月1日灘で採集されたドロメ。

「どろめ」は高知県民にとって欠かすことができない魚です。「どろめ」は標準和名でカタクチイワシという魚がおもな構成要素となる仔魚や若魚の集りです。この漁業では目の細かい網（パッチ網）を用い、二隻で操業します。

ドロメは2ページにあるアゴハゼと近縁で、標準体長で12cmほどの小魚です。ともに潮だまりやごく浅い所に生息しており、転石地帯や岩場で遊んだ経験がある人なら一度は見たことがあるはずです。ドロメはアゴハゼより内湾を好む傾向が強く、2003年度の本研究室の坪井美由紀さんの卒業研究では浦ノ内湾とその周辺で多数採集されましたが、直接土佐湾に面する磯では記録されていません。彼女の研究では、浦戸湾で本種が採集されませんでした。